

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 4 年 6 月 13 日現在

機関番号：17102

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18H00651

研究課題名(和文) 唐宋八大家散文の特色とその受容に関する総合的研究

研究課題名(英文) A Comprehensive Study on Prose Works by the Eight Masters of the Tang and Song: Their Characteristics and Reception

研究代表者

東 英寿 (HIGASHI, Hidetoshi)

九州大学・比較社会文化研究院・教授

研究者番号：90218686

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,100,000円

研究成果の概要(和文)：この4年の研究期間に、科研メンバー、海外の学者及び唐宋八大家をテーマとしている研究者と合同で「唐宋八大家シンポジウム」を合計6回開催した。これらのシンポジウムの研究成果等を収録した著書3冊『唐宋八大家の世界』(2019年3月)、『唐宋八大家の諸相』(2020年3月)、『唐宋八大家の探究』(2021年3月)を刊行した。これら3冊には、科研メンバーと日本、中国、台湾、韓国、シンガポール在住の研究者の論文が31篇収録されている。さらに、最終年度には、4年間の研究成果として、科研メンバーの論文16編を収録した『唐宋八大家研究』(2022年3月)を刊行した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本科研の1年目に『唐宋八大家の世界』、2年目に『唐宋八大家の諸相』、3年目に『唐宋八大家の探究』を刊行し、これら3書には日本、中国、台湾、韓国、シンガポール在住の研究者の論文31編を収録した。この科研プロジェクトが日本のみならず海外在住の研究者とも密接に繋がり国際的に展開したという社会的意義を有している。

これら3書以外に、最終年度に科研メンバーの研究成果16編を収録した『唐宋八大家研究』を刊行した。科研期間4年間で刊行した、これら4書は今後の研究において有益であり、学術的意義を有すると言える。

研究成果の概要(英文)：During the four-year research period, participants in this research project organized six symposia on the Eight Masters of the Tang and Song in collaboration with scholars based overseas and other researchers studying the same topic. The research findings presented at these symposia were published in three books: To-So Hachitaika no sekai (March 2019), To-So Hachitaika no shoso (March 2020), and To-So Hachitaika no tankyu (March 2021). These volumes comprise 31 articles authored by the project members as well as by other researchers based in Japan, China, Taiwan, South Korea, and Singapore. In its final year, the project culminated in the publication of To-So Hachitaika kenkyu (March 2022), an edited volume that contains 16 articles by the project members and features research results obtained over the course of four years.

研究分野：中国文学

キーワード：唐宋八大家

1. 研究開始当初の背景

中国古典における散文の大家である唐宋八大家 - 韓愈・柳宗元・歐陽脩・蘇洵・蘇軾・蘇轍・曾鞏・王安石 - は、中国文学史上に大きな足跡を残しているため、これまで個別の研究は多く行われてきた。ただ、そもそもなぜ唐宋八大家という枠組みが成立したのか。そこには、今日まで色褪せない八大家共通の散文の特色があるはずである。しかし、唐宋八大家の八人全体に視点を据えて、八大家の特色を比較する等の方法を用いた考察はこれまで行われていなかった。

こうした学術的背景を踏まえて、八大家全体を総合的に把握し考察して、八大家の文章における共通点、及び相違点等の特色を明らかにすることを通して、これまでとは違う観点から唐宋八大家を考察できると考えた。

また、唐宋八大家は我が国では特に江戸時代に受容され、今日の高等学校の漢文教育においても八大家の文章が教材となるなど、日本にも大いに影響を与えている。そこで、唐宋八大家散文の特色、及び江戸や明治期の我が国における八大家の受容の考察をすすめることで、従来の八大家個人ごとの研究や単なる受容論的八大家研究の枠を乗り越えて、唐宋八大家の特色と受容について総合的に考察できると考えたことが、本研究を立ち上げた背景である。

2. 研究の目的

これまで唐宋八大家それぞれの研究は多々行われてきた。もちろん、唐宋八大家全体を通しての研究も存在してはいたが、ともすれば概説的段階に止まっており、八大家の研究は対象ごとに孤立していた感があった。本研究では「唐宋八大家シンポジウム」を開催することを通して、八大家全体の研究の状況を共有し、八大家の特色等を明らかにして、唐宋八大家研究を進展させることを目指す。さらに、日本漢学を専門とし、江戸時代及び明治期における中国文学の影響を研究してきたメンバーを加え、当時の状況に即して日本における唐宋八大家の受容や影響を明らかにする。

本研究は、唐宋八大家を考察している中国文学の研究者と江戸や明治期における中国文学の受容や影響を考察対象としている日本漢学の研究者との共同研究であり、中国文学と日本漢学の研究視点やその成果を融合させることで、唐宋八大家の特色、我が国における八大家の受容を総合的に研究することを目的とする。

3. 研究の方法

本研究は6名による共同研究である。基本的には、6名各自が定めたテーマに即した個人研究の形をとるが、毎年研究についての打ち合わせを行い綿密な連携を図った。また、4年の期間中に毎年1回以上「唐宋八大家シンポジウム」を行うこととし、この4年の科研期間において合計6回のシンポジウムを開催し研究を展開させた。研究期間の前半の2年は、合計4名の海外からの研究者を招聘して科研メンバーと合同でシンポジウムを開催した。後半の2年は、新型コロナウイルス感染症の影響で海外からの研究者を招聘できずに、科研メンバーを中心として「唐宋八大家シンポジウム」を開催した。合計6回の「唐宋八大家シンポジウム」により、海外の研究者や科研メンバー、さらにはシンポジウム出席者の間で様々な意見交換を行い、研究課題を点から線へ、線から面へと発展的に捉える機会をもたらし、本科研における研究を進展させた。

4. 研究成果

まず、研究期間の1年目前半に研究対象を精確に把握し、問題の所在を具体的に明らかにすべく4年間の研究計画を立てた。次に、科研メンバーそれぞれが個別テーマに即して、関連資料を収集しテキストを読み込むという基礎的作業から出発し研究を展開する一方、研究成果のアウトプットも重視して、「唐宋八大家シンポジウム」を企画し、積極的に研究成果を発表した。

本科研においては、「唐宋八大家シンポジウム」を研究期間の4年間に6回開催し、海外の研究者と科研メンバーが一同に会し、関連する成果を持ち寄り討論した。このシンポジウムを通して、本研究のテーマの可能性を対外的に示し、本研究を大いに発展させることができた。

「唐宋八大家シンポジウム」の開催については、科研メンバーの東、浅見、内山が日本宋代文学学会の会長や理事をつとめているので、毎年の日本宋代文学学会大会において学会と協賛して開催した。すなわち、合計6回の「唐宋八大家シンポジウム」のうち、4回は日本宋代文学学会とコラボして毎年の大会で開催し、残りの2回は科研主催として単独で開催した。日本宋代文学学会における「唐宋八大家シンポジウム」の開催では、多くの宋代文学研究者と交流し、討論することができた。このように日本宋代文学学会とコラボすることで、日本における宋代文学研究者の本科研への関心を深めただけでなく、さらなる研究の可能性を探ることができた。このことは本科研の成果の一つと言える。

毎年開催した「唐宋八大家シンポジウム」における研究発表の成果、さらにシンポジウムの出席者やこれまで交流してきた研究者の唐宋八大家に関する論文を収録して、研究期間の1年目の成果として2019年3月に『唐宋八大家の世界』(花書院、全253頁)、2年目の成果として2020年3月に『唐宋八大家の諸相』(花書院、全284頁)、研究3年目の成果として2021年3月に『唐宋八大家の探究』(花書院、全232頁)を刊行した。これら3書を総合すると、唐宋八大家の個別研究としては、韓愈4編、柳宗元3編、歐陽脩4編、蘇洵1編、曾鞏3編、王安石3編、蘇軾5編、蘇轍3編となり、多い少ないはあるが唐宋八大家8人全てを網羅し、合計26編の論文を収録できた。これらの個別研究以外にも広く唐宋八大家に関連する論考5編を収録し、3書合わせて31編の論文を収録している。これら31編には、日本、中国、台湾、韓国、シンガポール在住の研究者の論文が含まれており、日本語の論文が17編、中国語の論文が14編となっている。この科研プロジェクトが日本のみならず、海外在住の研究者と密接に繋がり国際的に展開できたことがわかる。

さらに、科研最終年度には、これまで4年間の研究成果をまとめて『唐宋八大家研究』(中国書店、全315頁)を2022年3月6日に刊行した。本科研の成果報告書として計画された本書は、「唐宋八大家総論」と「唐宋八大家各論」という大きく二つの部分からなり、唐宋八大家全体に視点を据えて唐宋八大家古文を比較対照した研究を総論に収録し、日本における唐宋八大家の受容に関する研究を総論と各論に配置し、唐宋八大家八人について広く散文や詩詞、思想等に関連する個別研究を各論に収録するという構成となっている。本書には、科研メンバーの4年間の研究成果として合計16本の論文を収録した。

以上、科研期間の4年間に於いて、上述した如く6回の「唐宋八大家シンポジウム」を開催し、さらに『唐宋八大家の世界』、『唐宋八大家の諸相』、『唐宋八大家の探究』、『唐宋八大家研究』と毎年1冊ずつ合計4冊の研究成果の報告書(著書)を刊行して、成果を広く世に問うことができたことは、本科研の大きな研究成果である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計38件（うち査読付論文 9件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 東 英寿、久保山哲二	4. 巻 なし
2. 論文標題 唐宋八大家古文の計量分析的考察－序、記、論の虚詞分析	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東英寿編著『唐宋八大家研究』（中国書店）	6. 最初と最後の頁 12-33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 東 英寿	4. 巻 なし
2. 論文標題 歐陽脩書簡九十六篇の発見による新知見－新発見書簡11と35をめぐって	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東英寿編著『唐宋八大家研究』（中国書店）	6. 最初と最後の頁 210-218
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 東 英寿	4. 巻 なし
2. 論文標題 曾鞏の逆襲－唐宋八大家中存在感最弱の人？	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東英寿編著『唐宋八大家研究』（中国書店）	6. 最初と最後の頁 227-236
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本嘉孝	4. 巻 なし
2. 論文標題 近世日本における蘇轍「上枢密韓太尉書」受容 室鳩巢と頼山陽を中心に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東英寿編著『唐宋八大家研究』（中国書店）	6. 最初と最後の頁 293-313
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 副島一郎	4. 巻 なし
2. 論文標題 柳宗元の政治論と『管子』復活	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東英寿編著『唐宋八大家研究』（中国書店）	6. 最初と最後の頁 102-159
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 副島一郎	4. 巻 18
2. 論文標題 （唐）陸贄「均節賦税恤百姓六條」譯注稿（一）「其一論兩税之弊須有釐革」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 GR 同志社大学グローバル地域文化学会紀要	6. 最初と最後の頁 117-148
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 合山林太郎	4. 巻 なし
2. 論文標題 評の蓄積と誼誦による記憶 明治前期の日本における『唐宋八大家文読本』の受容のあり方	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東英寿編著『唐宋八大家研究』（中国書店）	6. 最初と最後の頁 58-67
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 合山林太郎	4. 巻 なし
2. 論文標題 王安石「山櫻」詩と近世日本におけるサクラについての議論（補訂版）	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東英寿編著『唐宋八大家研究』（中国書店）	6. 最初と最後の頁 237-256
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内山精也	4. 巻 なし
2. 論文標題 蘇軾の密・徐知州時代の文と詩詞	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東英寿編著『唐宋八大家研究』（中国書店）	6. 最初と最後の頁 257-292
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 浅見洋二	4. 巻 なし
2. 論文標題 盲者のシンボリズム 韓愈「拘幽操」、孟郊「寄張籍」、そして『論語』微子を結ぶもの	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東英寿編著『唐宋八大家研究』（中国書店）	6. 最初と最後の頁 70-83
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 浅見洋二	4. 巻 なし
2. 論文標題 罪人の笑い 柳宗元と蘇軾	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東英寿編著『唐宋八大家研究』（中国書店）	6. 最初と最後の頁 160-166
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 浅見洋二	4. 巻 なし
2. 論文標題 さまざまなる自責 蘇洵「自尤」詩をめぐって	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東英寿編著『唐宋八大家研究』（中国書店）	6. 最初と最後の頁 219-226
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 東 英寿	4. 巻 72
2. 論文標題 吉州本『近體樂府』考	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本中国学会報	6. 最初と最後の頁 62-76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 東 英寿	4. 巻 49
2. 論文標題 歐陽脩は二重人格かー詞の作成場面と受容環境に着目してー	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 中国文学論集	6. 最初と最後の頁 65-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 東 英寿	4. 巻 総第36期
2. 論文標題 關於南宋刊本《歐陽文忠公集》之「續添」ー與新発見の歐陽脩書簡九十六篇相關連ー	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 文学論衡 (香港中国語文学会)	6. 最初と最後の頁 30-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本嘉孝	4. 巻 35
2. 論文標題 木下順庵と林家	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 北陸古典研究	6. 最初と最後の頁 42-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 合山林太郎	4. 巻 なし
2. 論文標題 王安石「山櫻」詩と近世日本におけるサクラについての議論	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東英寿編著『唐宋八大家の探究』（花書院）	6. 最初と最後の頁 113-130
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 東 英寿、宮原哲浩	4. 巻 なし
2. 論文標題 唐宋八大家の文章におけるクラスター分析試論	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東英寿編著『唐宋八大家の探究』（花書院）	6. 最初と最後の頁 5-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 浅見洋二	4. 巻 総第36期
2. 論文標題 罪と田園 蘇軾、陸游研究の一個視点	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 文学論衡（香港中国語文学会）	6. 最初と最後の頁 12-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 浅見洋二	4. 巻 第61巻
2. 論文標題 罪と田園、あるいはヒン風について 蘇軾・陸游ノート	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 大阪大学大学院文学研究科紀要	6. 最初と最後の頁 47-134
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 東 英寿	4. 巻 なし
2. 論文標題 歐陽脩《近体樂府》的成立与伝承 別一種《近体樂府》	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中華文史論叢	6. 最初と最後の頁 125-140
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 東 英寿	4. 巻 なし
2. 論文標題 關於和刻本《歐陽文忠公文集》	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 淮河文化研究叢書	6. 最初と最後の頁 19-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 東 英寿	4. 巻 2020年第1期
2. 論文標題 虚詞使用法觀照下的曾鞏古文特色 与歐陽脩文風之比較	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 華南師範大学学報 (社会科学版)	6. 最初と最後の頁 18-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 浅見洋二	4. 巻 2019年第5期
2. 論文標題 文本的“公”与“私” 蘇軾尺牘与文集編纂	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 文学遺産	6. 最初と最後の頁 72-84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 浅見洋二	4. 巻 第63巻第4号
2. 論文標題 「避言」と「秘密」 中国の詩をつらぬくもの	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代詩手帖	6. 最初と最後の頁 62-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 浅見洋二	4. 巻 なし
2. 論文標題 韓愈「拘幽操」について 罪人の文学史・初探	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東英寿編著『唐宋八大家の諸相』(花書院)	6. 最初と最後の頁 93-129
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本嘉孝	4. 巻 なし
2. 論文標題 「文粹もの」における朱子学と陽明学の折衷	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 鈴木健一編『明治の教養 変容する 和 漢 洋 』(勉誠出版)	6. 最初と最後の頁 154-175
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 副島一郎	4. 巻 第6集
2. 論文標題 文章復古論の分岐 「古文辭」をめぐる荻生徂徠・太宰春台・堀景山の論争	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本宋代文学学会報	6. 最初と最後の頁 72-99
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内山精也	4. 巻 なし
2. 論文標題 作爲職業的詩人 宋末元初詩壇發生了什麼？	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 諸葛憶兵・蘇碧銓編『第十届宋代文學國際研討會論文集』（北方文藝出版社）	6. 最初と最後の頁 113-141
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内山精也	4. 巻 第4輯
2. 論文標題 中國詩人の變貌 詩人認識における宋元變革	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 江湖派研究會『江湖派研究』	6. 最初と最後の頁 1-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 合山林太郎	4. 巻 なし
2. 論文標題 大沼枕山・鶴林と永井荷風『下谷叢話』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 二松学舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の「知」の形成と漢学」	6. 最初と最後の頁 1-35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 東 英寿	4. 巻 5
2. 論文標題 南宋刊本『歐陽文忠公集』の「續添」について - 新発見の歐陽脩書簡九十六篇との関連 -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本宋代文學學會報	6. 最初と最後の頁 56-74
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 東 英寿	4. 巻 なし
2. 論文標題 曾肇の散文について - 歐陽脩の散文との類似点 -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『唐宋八大家の世界』（花書院）	6. 最初と最後の頁 123-145
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本嘉孝	4. 巻 なし
2. 論文標題 中村蘭林と和歌 学問吟味の提言と平安朝の讃仰	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 飯倉洋一・盛田帝子編『文化史のなかの光格天皇 朝儀復興を支えた文芸ネットワーク』（勉誠出版）	6. 最初と最後の頁 209-226
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本嘉孝	4. 巻 なし
2. 論文標題 清水赤城と『名山図譜』	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 水田紀久先生を追悼する会編『水田紀久先生追悼文集』（中尾松泉堂書店）	6. 最初と最後の頁 77 80
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本嘉孝	4. 巻 33
2. 論文標題 室鳩巢の擬古詩 模倣・虚構・寓意	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 北陸古典研究	6. 最初と最後の頁 22 34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本嘉孝	4. 巻 なし
2. 論文標題 室鳩巢の和陶詩 模倣的作詩における宋詩の影響	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 滝川幸司・中本大・福島理子・合山林太郎編『アジア遊学 文化装置としての日本漢文学』（勉誠出版）	6. 最初と最後の頁 69 79
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 浅見洋二	4. 巻 第3輯
2. 論文標題 文本与秘密 再論言論統制下の文学文本	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 宋代文学評論	6. 最初と最後の頁 243-267
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計32件（うち招待講演 6件 / うち国際学会 18件）

1. 発表者名 東 英寿 ・久保山 哲二
2. 発表標題 唐宋八大家古文の計量分析的考察 序・記・論の虚詞分析
3. 学会等名 第6回唐宋八大家シンポジウム
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山本嘉孝
2. 発表標題 近世日本における蘇轍「上枢密韓太尉書」受容 室鳩巢と頼山陽を中心に
3. 学会等名 第6回唐宋八大家シンポジウム
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山本嘉孝
2. 発表標題 Pen Pals in Crime: Literary Sinitic Letter Writing in Tokugawa Japan
3. 学会等名 Yale University CEAS Colloquium Series、Yale University CEAS (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 内山精也
2. 発表標題 蘇軾の密・徐知州時代における文と詩詞 北宋太守の文學、日本宋代文学学会第8回大会、第6回唐宋八大家シンポジウム
3. 学会等名 第6回唐宋八大家シンポジウム
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 東 英寿
2. 発表標題 歐陽脩は二重人格かー詞の作成場面と受容環境に着目してー
3. 学会等名 第5回唐宋八大家シンポジウム
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 合山林太郎
2. 発表標題 サクラ(桜花)の漢名をめぐる近世日本の議論と宋詩
3. 学会等名 第5回唐宋八大家シンポジウム
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yoshitaka Yamamoto
2. 発表標題 The Sinitic Seuil: Classical Chinese Prefaces in Japanese Books
3. 学会等名 MLA 2021 (Modern Language Association) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 油野 紗也加, 宮原 哲浩, 黒河 康平, 林 哲郎, 鈴木 祐介, 内田 智之, 久保山 哲二, 松本 哲志, 東 英寿
2. 発表標題 中国古典文学作品に対する虚詞出現率によるクラスタリングを用いた特徴分析支援システムの開発
3. 学会等名 火の国情報シンポジウム2021
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 東 英寿
2. 発表標題 關於南宋刊 歐陽文忠公集 之續添一與新発見歐陽脩書簡九十六篇相關連一
3. 学会等名 中国宋代文学学会第十一届年会及宋代文学国際研討会 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 東 英寿
2. 発表標題 從書簡看周必大《歐陽文忠公集》的編纂
3. 学会等名 2019福州・中国歐陽脩暨宋代散文国際學術研討会 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 浅見洋二
2. 発表標題 罪与田園 蘇軾、陸游詩文札記
3. 学会等名 中国宋代文学学会第十一届年会及宋代文学国际研讨会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山本嘉孝
2. 発表標題 Poetic Inscriptions as Contemporary Art Criticism: “[Female Performer Playing the Shamisen]” by Yamaguchi Soken and Minagawa Kien
3. 学会等名 Creative Collaboration: Kyoto-Osaka Pictorial Arts and Salon Culture, 1750-1900 Workshop（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山本嘉孝
2. 発表標題 Kamigata Literati Meetings in Illustrated Gazetteers and Poetry Collections
3. 学会等名 Mapping Collaborations and Networks in Kyoto-Osaka Cultural Production and Digital Humanities Workshop（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山本嘉孝
2. 発表標題 Judging a Poem by Its Title: The Exophonic Significance of Poem Titles in Japanese Sinitic Poetry
3. 学会等名 World Literatures and the Global South Conference 2019（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山本嘉孝
2. 発表標題 「修辞」のゆくえ 英訳と漢文脈
3. 学会等名 近代文学三学会合同国際研究集会（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 東 英寿
2. 発表標題 従歐陽脩新發現書簡看周必大、朱熹關於范仲淹神道碑銘的論爭
3. 学会等名 第四届中国古代文章学学术研討会（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 東 英寿
2. 発表標題 歐陽脩の詞集について - 吉州本『近体楽府』をめぐって -
3. 学会等名 第1回唐宋八大家シンポジウム
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 東 英寿
2. 発表標題 周必大の『歐陽文忠公集』編纂について
3. 学会等名 国際文学倫理学批評研究会及び国際學術シンポジウム（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 東 英寿
2. 発表標題 新発見の歐陽脩書簡について - 周必大の『歐陽文忠公集』編纂との関連から -
3. 学会等名 平成30年度宋代史研究会夏合宿・ワークショップ「宋代の手紙資料の可能性」(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 東 英寿
2. 発表標題 歐陽脩の和刻本について
3. 学会等名 第2回唐宋八大家シンポジウム
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山本嘉孝
2. 発表標題 Paper and Threads: My Encounter with Early Modern Japanese Books
3. 学会等名 JSPS 外国人特別研究員サマー・プログラム 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山本嘉孝
2. 発表標題 Transcultural Dimensions of Edo Japan: Flower Arrangement and Tea Ceremony
3. 学会等名 Workshop: Transcultural Dimensions of Edo Japan (Heidelberg University) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山本嘉孝
2. 発表標題 蕙齋・北齋の『繪本孝經』挿絵について
3. 学会等名 第14回北齋序文を読む研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山本嘉孝
2. 発表標題 光格天皇歌壇と漢詩 天明三年九月十三日当座詩歌会を中心に
3. 学会等名 第2回近世中後期上方文壇における人的交流と文芸生成の 場 公開研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 副島一郎
2. 発表標題 日本江戸時代有關“唐話”及“古文辞”的批評
3. 学会等名 第四届中国古代文章学学术研讨会（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 副島一郎
2. 発表標題 荻生徂徠古文辭批判 - 宋代文論の立場から -
3. 学会等名 第2回唐宋八大家シンポジウム
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 浅見洋二
2. 発表標題 蘇軾文集的編纂与尺牘
3. 学会等名 韻律与文体工作坊2018（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 浅見洋二
2. 発表標題 闇のなかのテキスト、テキストのなかの闇 言論統制下における蘇軾の文学活動をめぐって
3. 学会等名 国際文学倫理学批評研究会及び国際学術シンポジウム（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 浅見洋二
2. 発表標題 テキストの公と私 蘇軾の書簡から
3. 学会等名 平成30年度宋代史研究会夏合宿・ワークショップ「宋代の手紙資料の可能性」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 浅見洋二
2. 発表標題 文本的「公」と「私」 蘇軾文集的編纂与尺牘
3. 学会等名 2018国際中青年学者宋代文学研討会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 浅見洋二
2. 発表標題 論韓愈《拘幽操》 罪人の文学史初探
3. 学会等名 中国唐代文学学会第19回大会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 浅見洋二
2. 発表標題 テキストの公と私
3. 学会等名 第3回唐宋八大家シンポジウム
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 東 英寿	4. 発行年 2022年
2. 出版社 中国書店	5. 総ページ数 315
3. 書名 唐宋八大家研究	

1. 著者名 東 英寿	4. 発行年 2021年
2. 出版社 花書院	5. 総ページ数 232
3. 書名 唐宋八大家の探究	

1. 著者名 東 英寿編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 花書院	5. 総ページ数 284
3. 書名 唐宋八大家の諸相	

1. 著者名 浅見洋二	4. 発行年 2019年
2. 出版社 研文出版	5. 総ページ数 335
3. 書名 中国宋代文学の圏域	

1. 著者名 東 英寿	4. 発行年 2019年
2. 出版社 花書院	5. 総ページ数 253
3. 書名 唐宋八大家の世界	

1. 著者名 内山精也	4. 発行年 2018年
2. 出版社 研文出版	5. 総ページ数 450
3. 書名 宋詩惑問 宋詩は「近世」を表象するか？	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	副島 一郎 (SOEJIMA Ichirou) (00288565)	同志社大学・グローバル地域文化学部・教授 (34310)	
研究分担者	合山 林太郎 (GOUYAMA Rintarou) (00551946)	慶應義塾大学・文学部(三田)・准教授 (32612)	
研究分担者	内山 精也 (UCHIYAMA Seiya) (20275019)	早稲田大学・教育・総合科学学術院・教授 (32689)	
研究分担者	山本 嘉孝 (YAMAMOTO Yoshitaka) (40783626)	国文学研究資料館・研究部・准教授 (62608)	
研究分担者	浅見 洋二 (ASAMI Youji) (70184158)	大阪大学・文学研究科・教授 (14401)	
研究分担者	宮原 哲浩 (MIYAHARA Tetuhiro) (90209932)	広島市立大学・情報科学研究科・准教授 (25403)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 国際文学倫理学批評研究会及び国際学術シンポジウム	開催年 2018年～2018年
------------------------------------	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------